

増減5%を基準とした評価例（抜すい）

※平成28年度実績に対する平成29年度実績の評価例

※次回の委員会にて、平成29年度実績に対して平成30年度実績の評価を行う。

基本目標 1 低炭素社会 ～地球にやさしいまちづくり～

評価項目	実績値 (平成28年度末)	実績値 (平成29年度末)	増減		点数	5%到達（4点満点）	
1 区内における温室効果ガス排出量を減らす。	2,473 千t-CO2	2,428 千t-CO2	-1.8%	5%未満の減少	3	2,350 千t-CO2	-5.0%
5 中央エコアクト（家庭用）を推進する。（参加世帯数を増やす）	648 世帯	694 世帯	7.1%	5%以上の増加	4	—	—
7 公園灯のLED化を推進する。（基数を増やす）	344 基	428 基	24.4%	5%以上の増加	4	—	—
10 コミュニティサイクル事業を推進する。（利用回数を増やす）	266,836 回	648,884 回	143.2%	5%以上の増加	4	—	—
11 「中央区の森」事業を推進する。（整備面積を拡大する）	42.3 ha	42.3 ha	0.0%	5%未満の増加	3	44.5 ha	5.2%

基本目標 2 循環型社会 ～限りある資源を大切にすまちづくり～

評価項目	実績値 (平成28年度末)	実績値 (平成29年度末)	増減		点数	5%到達（4点満点）	
1 区内ごみ量（家庭ごみと事業系ごみの1年間当たりの総量）を減らす。	107,773 t	108,868 t	1.0%	5%未満の増加	2	102,420 t	-5.0%
5 住民による資源の集団回収量を増やす。	4,683 t	4,829 t	3.1%	5%未満の増加	3	4,920 t	5.1%
7 資源の拠点回収量を増やす。	79,966 Kg	81,610 Kg	2.1%	5%未満の増加	3	84,450 Kg	5.6%

基本目標 3 自然共生社会 ～水とみどりにかこまれた豊かなまちづくり～

評価項目	実績値 (平成28年度末)	実績値 (平成29年度末)	増減		点数	5%到達（4点満点）	
1 公園数を増やす。	56 園	56 園	0.0%	5%未満の増加	3	59 園	5.4%
3 街路樹の本数を増やす。	6,816 本	6,791 本	-0.4%	5%未満の減少	2	7,200 本	5.6%
7 緑化助成を推進する。（助成面積を増やす）	305 m ²	169 m ²	-44.6%	5%以上の減少	1	325 m ²	6.6%
8 緑化ボランティアを推進する。（参加人数を増やす）	1,200 人	826 人	-31.2%	5%以上の減少	1	1,260 人	5.0%

基本目標 4 安全安心な社会 ～安心とやすらぎが実感できるまちづくり～

評価項目	実績値 (平成28年度末)	実績値 (平成29年度末)	増減		点数	5%到達(4点満点)	
1 遮熱性舗装の整備を推進する。(整備面積を増やす)	52,962 m ²	55,787 m ²	5.3%	5%以上の増加	4	—	—
8 低騒音舗装の整備を推進する。(整備面積を増やす)	62,073 m ²	65,095 m ²	4.9%	5%未満の増加	3	65,200 m ²	5.0%
9 水生生物(魚類・甲殻類)の個体数を増やす。	172 個(H25数値)	実施せず	—	—	—	182 個	5.8%

基本目標 5 学びと行動の輪(わ) ～みんなで環境活動に取り組むまちづくり～

評価項目	実績値 (平成28年度末)	実績値 (平成29年度末)	増減		点数	5%到達(4点満点)	
4 環境情報センター事業を推進する。(総来館者数を増やす)	28,414 人	29,370 人	3.4%	5%未満の増加	3	29,850 人	5.1%
5 環境情報センター事業を推進する。(講演会・講座等参加者数を増やす)	8,164 人	9,464 人	15.9%	5%以上の増加	4	—	—
6 まちかどクリーンデーを推進する。(参加登録数を増やす)	249 人	251 人	0.8%	5%未満の増加	3	262 人	5.2%

表1 評価項目の採点基準(修正案)

達成状況	点数(4点満点)
基準値に対し、実績値の増加(減少)が5%以上である。	4点
基準値に対し、実績値の増加(減少)が5%未満である。	3点
基準値に対し、実績値の減少(増加)が5%未満である。	2点
基準値に対し、実績値の減少(増加)が5%以上である。	1点

※実績値→評価対象年度の実績 ※基準値→評価対象年度の前年度実績値

※(減少)(増加)・・・二酸化炭素排出量、ごみ量など

※増減なし(現状維持)の場合は、3点とする。

※事業の性質によっては、5%到達が容易なケース、困難なケースなど、さまざまであるが、総合評価を行うにあたっては、統一的な基準が必要と考え、実績値の増減に基づく評価を行う。

ただし、国の基準に基づき、既に評価している項目もあり、それらの評価内容を踏まえた採点を行うケースがある。(河川水質、自動車公害、大気などの環境調査)